

令和6年度第3回亀岡市環境基本計画推進会議

開催日時	令和7年1月20日(月) 午前10時～11時
開催場所	亀岡市役所別館3階会議室
出席者	田部委員、船越委員、山脇委員(森委員の代理出席)、大津委員、井上委員、内藤委員、橋委員、村山委員、川口委員、伊藤委員、多胡委員、法貴委員、山内幹事 (事務局3名)
欠席者	芦刈委員、豊田委員、堀下委員、吉田委員、中川委員、中澤委員
傍聴者数	1名
次第	協議事項 ・亀岡市地域再エネ導入ゾーニング報告書(案)について 報告事項 ・「かめおか脱炭素未来プラン」進行管理について

1 会長挨拶

2 協議事項

(1)亀岡市地域再エネ導入ゾーニング報告書(案)について

≪資料に沿って事務局から説明≫

委員

ゾーニングマップの区分けの表示方法が分かりにくく、理解するのに時間がかかる。太陽光発電について、屋根置き型と地上設置型それぞれに導入可能性検討エリアが設定されており、その中に公共施設や白地エリアが位置付けられている。これらの関係性を見やすく表記して欲しい。

事務局

全ての区分けを一つの地図上に重ね合わせているため分かりにくいのかと思う。報告書においては詳しく解説を記載しているが、概要版の方でも分かりやすい地図となるよう工夫したい。

会長

次週開催の環境審議会までに修正は可能か。

事務局

そのようにさせていただく。

委員

凡例と地図上の塗りつぶしの色はリンクしているのか。

事務局

リンクしている。

委員

屋根置き型の太陽光発電は市街化区域のみを対象としているのか。

事務局

屋根置き型太陽光発電については、市街化区域の建物屋根や公共施設の屋根を想定している。

委員

ため池は、農業用水として使用した場合にも底をつかない、もしくは水位が大きく下がらないため池を選定しているのか。

事務局

現状、水位については考慮していない。ため池の面積と法令上の規制等で絞り込んでいるため、事業化にあたっては地元との綿密な調整が必要かと考える。

会長

今は地図上で分けした段階であり、今後調査を進めていくイメージか。

事務局

まずは再エネの導入可能性があるエリアを調査し、地図上に落とした段階である。

委員

通年で満水状態のため池はあまりないのではないかと。フロート式の場合、水位の影響をかなり受けるだろう。さらにコストの問題もあることから、ため池への太陽光発電の導入はかなり難しいと感じた。

3 報告事項

(1)「かめおか脱炭素未来プラン」進行管理について

《資料に沿って事務局から説明》

会長

進行管理表の和暦の部分に西暦表記も追記した方が分かりやすい。

事務局

修正させていただく。

委員

太陽光発電導入容量としてFIT 導入量を記載しているが、今は自家消費型へと移行が進んでいるため実情に合わないのではないか。

また、太陽光発電補助金交付件数について、予算に左右されるため指標として不適ではないか。

事務局

ご指摘の通り FIT は今後減少すると想定している。本市においても自家消費型の太陽光発電を対象とした補助金をスタートするなど非 FIT への対応も行っている。国の制度や世界情勢などの影響も受けやすい分野であることから、指標については柔軟に見直しながらか対応したいと考えている。

補助金については、国や府とも連携しながら拡充を図りたいと考えているため、今後の方針的な意味合いでも指標に入れさせていただいた。

委員

東京都などは電気自動車への補助金を設けている。電気自動車の普及にはコストが課題であるため、市で率先して支援に取り組んで欲しい。

事務局

電気自動車については、車への補助とともに充電器の整備も重要であると考えている。現在、公共施設への充電器の設置を進めているところだが、次世代自動車購入に対する補助制度等も今後検討していきたい。

委員

二酸化炭素排出量の目標数値が2030年度25万7千トンとなっている理由を聞かせて欲しい。また、ごみ排出量の削減率について、最新数値が目標値を既に上回っている理由も合わせて聞かせて欲しい。

事務局

二酸化炭素の排出量については、直近の35万5千トンから2030年度の目標値に向けて差分を抑制していきたいと考えている。かなり高い目標となっているため、太陽光発電を中心に再エネや省エネの取組を組み合わせることで推進していきたい。

続いて、ごみの削減率については既に目標を達成する結果となった。関係部署とも調整し、指標の見直し等を検討していきたい。

委員

ごみの削減率については、産業部門と家庭部門で分けた方が分かりやすいのではないかと。

表のレイアウトとして、2030年度の目標と最新数値の列を入れ替えた方が視覚的に見やすいのではないかと。

事務局

ごみの排出量については、市役所が収集運搬する一般廃棄物と事業者等が収集運搬する産業廃棄物に分かれる。さらに一般廃棄物の中にも事業系一般廃棄物が含まれるが、圧倒的に家庭からの排出量が多い。区分けが可能かどうか確認し、指標検討の際に参考とさせていただきたい。

幹事

事業系一般廃棄物はデータが取れると思うので、可視化の方法も含めて検証させていただきたい。

事務局

ゾーニング事業もかめおか脱炭素未来プランの進行管理も理解するためには一定の環境知識が必要となる。それぞれの層に情報を届けたいかと再度考えた方がよいのではないかと。広く一般的に理解いただけるものと専門的な内容のものに分けるのも手法の一つかと思う。

事務局

分かりやすい表現やターゲットというところを再度検討したい。注釈やコラムの活用など身近に感じてもらえるような表現を工夫したい。

委員

今後、広報の方法が重要になってくる。例えば指標の中の LED 化率は蛍光灯の生産中止を考えれば不必要な指標かと思う。むしろ一般の人たちに生産中止を伝え、早く取り替えるよう広報していく方が大切ではないか。

屋根置き型の太陽光発電についても何がメリットでデメリットかをまず伝えないと前に進まない。数値的な根拠も明示した資料を作るなど分かりやすい広報に努めて欲しい。

事務局

広報の重要性は認識している。京都府の資料等を参考に広報物を工夫していきたい。

委員

以前、情報誌を作る仕事をしていた時にターゲット設定に気を付けていた。前知識のない人が読んだ時に分かるかどうか、違う視点を持つ人にチェックしてもらうことが大事だと思う。少なくとも概要版は専門知識がない人でも理解できる内容にした方がよい。

事務局

委員の皆さんのご意見を参考に改めて事務局で内容を検討させていただきたい。

4 副会長挨拶

5 閉会

以上